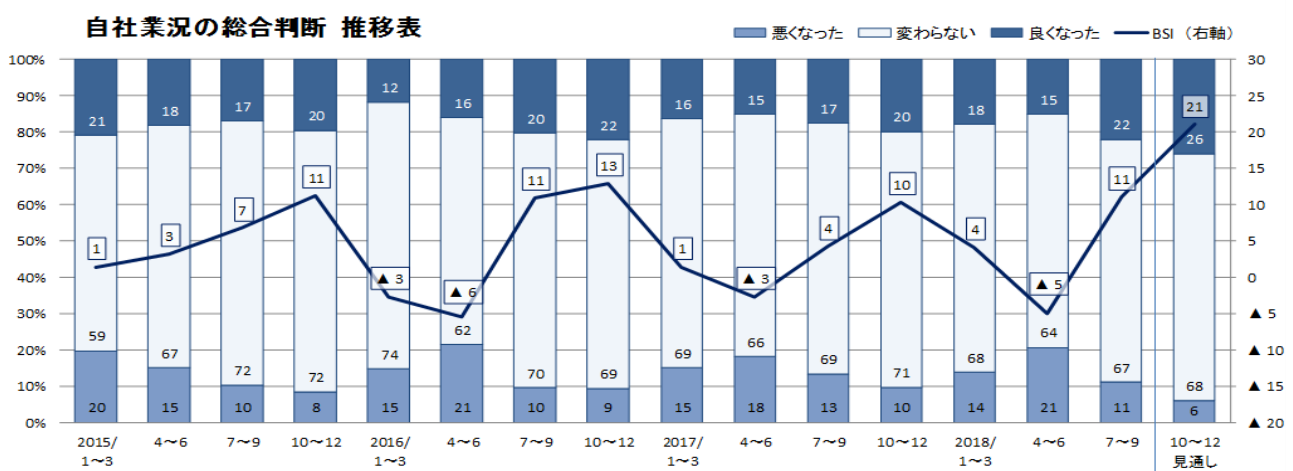


「第 142 回高知県内企業の景況調査」

- ① 企業経営者の来期(2018/10~12月)業況判断 BSI は、今期より 10 ポイント好転し 21。18 年ぶりの高水準の見通し。
- ② 設備投資をする企業の割合は、今年下半期(2018/7~12月)、2 年ぶりに 50% 超えの高水準。来年上半期(2019/1~6月)は、5 ポイント低下するものの一定レベル(45% 前後)の水準維持。
- ③ 人手不足や仕入れ価格の上昇などの課題はあるものの、堅調な国内景気を背景に企業経営者のマインドが改善。今後も県内経済は、引き続き緩やかな持ち直しの動きが続く見込み。



	2015/1~3	4~6	7~9	10~12	2016/1~3	4~6	7~9	10~12	2017/1~3	4~6	7~9	10~12	2018/1~3	4~6	7~9	10~12 見通し
良くなった	21	18	17	20	12	16	20	22	16	15	17	20	18	15	22	26
変わらない	59	67	72	72	74	62	70	69	69	66	69	71	68	64	67	68
悪くなった	20	15	10	8	15	21	10	9	15	18	13	10	14	21	11	6
BSI(右軸)	1	3	7	11	▲3	▲6	11	13	1	▲3	4	10	4	▲5	11	21

※数値は非該当や小数点第 1 位を四捨五入により、合計が 100、あるいは BSI=A-C の数値と一致しない場合がある。

調査実施内容	
1 調査目的	高知県内企業経営者の景況感の把握
2 調査対象	高知県内に事業所を置く法人178社 回答企業146社、回答率82.5%
3 調査方法	郵送及び四国銀行の店舗で配布の上 回収
4 調査事項	自社業況の総合判断、売上高、経常利益 設備投資、在庫BSI、雇用BSIなど
5 調査時期	2018年8月1日~9月3日

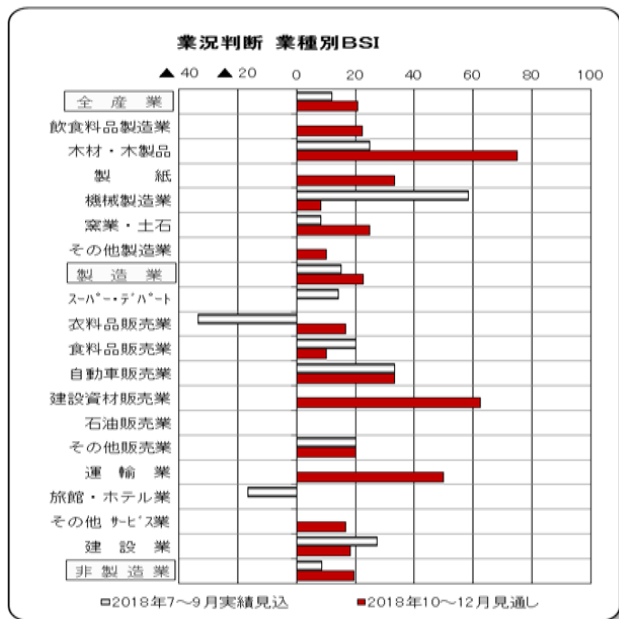
＝BSIについて＝ BSI は、ビジネス・サーベイ・インデックスの略で、好転した企業の割合と悪化した企業の割合の差で企業経営者のマインドから景気判断をみる指標である。BSI がプラスであれば、その項目は「良い、好転、上昇」とみることができ、逆にマイナスであれば「悪い、悪化、下降」と判断できる。

1. 今期実績見込みと来期見通し

(1) 自社業況の総合判断

今期(2018/7~9月)県内企業の業況判断 BSI は、**11**。前期から**16ポイント**上昇し、**好転**。製造・非製造業ともに景況感は、足元の堅調な国内景気動向や堅調な企業業績を背景に好転した。

来期の業況判断 BSI (2018/10~12月)は**21**。今期からさらに**10ポイント**上昇。**18年ぶりの高水準の見通し**。今期同様に人手不足や仕入れ価格の上昇など課題はあるものの、県内経済は引き続き緩やかな持ち直しの動きが続く見込み。



(2) 売上高

今期の売上高 BSI (2018/7~9月)は**9**。前期比**15ポイント**上昇。特に製造業が前期比**26ポイント**上昇と大幅な伸び。

来期 BSI (2018/10~12月)は**16**。**2年ぶりの高水準**。製造業の増収幅は縮小するものの、今期並みの増収幅となる非製造業がけん引。

(3) 経常利益

今期の経常利益 BSI は**7**。前期比**19ポイント**の大幅な上昇。ただ、業種別にみるとばらつきがあり、製造業は増益見通しである一方、非製造業は豪雨など一過性の天候要因などで衣料品販売や旅館・ホテル

などが全体を引き下げ減益見込み。

来期 BSI は**9**。**2年ぶりの高水準**。製造業は増益幅が縮小する見通しであるが、増益に転じる見通しの非製造業が全体を押し上げ。

(4) 資金繰り

今期資金繰り BSI は**3**。前期比**1ポイント**上昇。

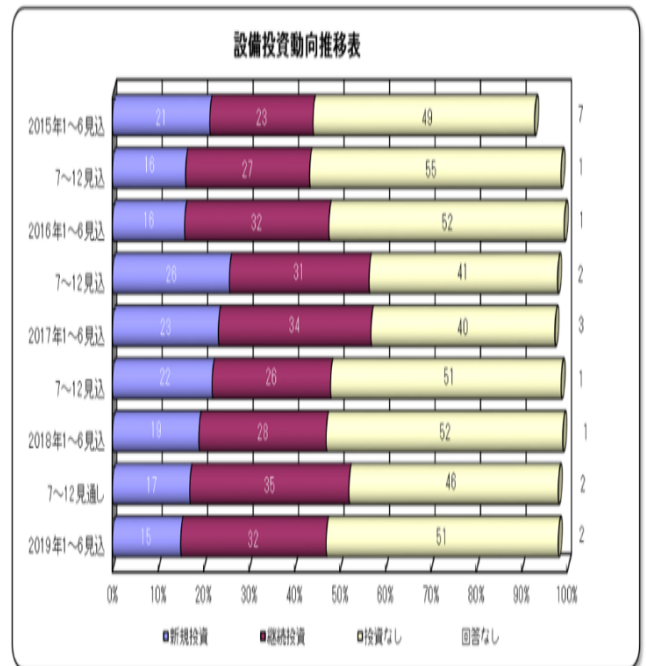
来期 BSI は**5**。**持ち直しの動き**。製造・非製造業ともに、売上高増加などを背景に資金繰りは余裕がある見通し。

2. 設備投資

(1) 設備投資動向

今年下半期(2018/7~12月)、設備投資をする企業の割合は**52%**。前期(2018/1~6月)比で**5ポイント**上昇。**2年ぶり50%超えの高水準**。堅調な企業業績見込みから、製造・非製造業ともに高水準を維持。

来年上半期(2019/1~6月)は**47%**、と今期から**5ポイント**低下。**来年以降の不透明感から慎重姿勢だが、安定した水準**。特に、製造業は引き続き**70%**を超える高水準を維持。



(2) 設備投資目的

①2018年7～12月実績見込み

製造業は、「維持・補修・更新」78%が1位で、「合理化・省力化」38%が2位。一方、非製造業は、「維持・補修・更新」62%が1位で、「生産・販売力の拡充」32%が2位。

今期は製造・非製造業とも、人手・人材不足対応や生産性向上に向けた「合理化・省力化」投資がそれぞれ前期比6ポイント、同8ポイント上昇していることが特徴点。

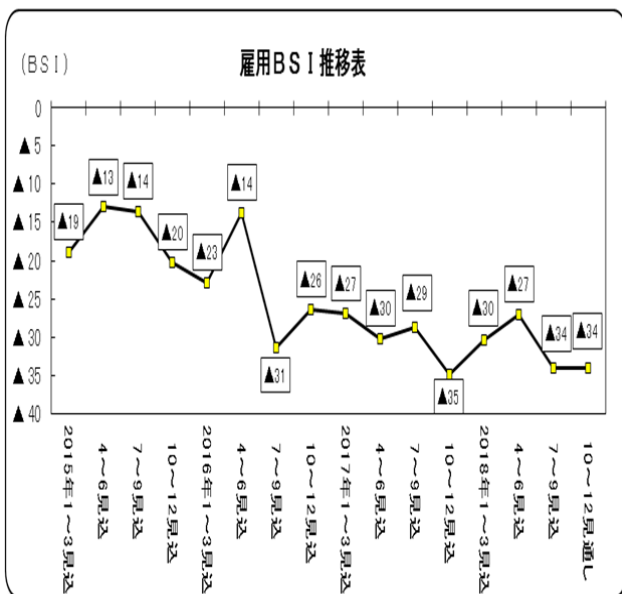
②2019年1～6月計画

製造業は、「維持・補修・更新」79%が1位、「合理化・省力化」31%が2位。一方、非製造業では、「維持・補修・更新」59%が1位、「生産・販売力の拡充」41%が2位。

「維持・補修・更新」は、製造業、非製造業ともに高水準が続く。今後も「維持・補修・更新」を目的とした投資は増加の見通し。

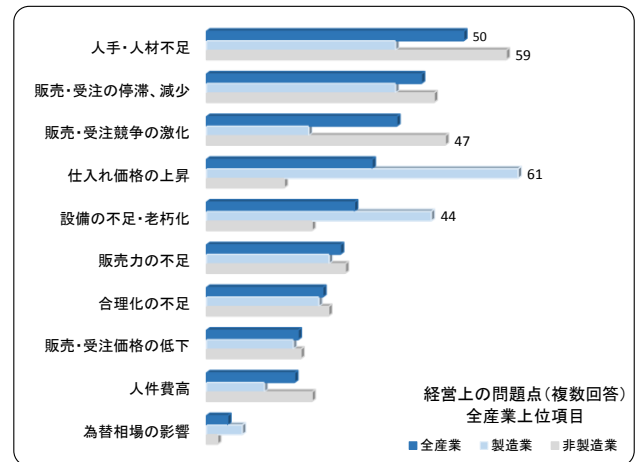
3. 雇用の動向

雇用BSIは、今期・来期とも▲34と引き締まり傾向で推移し、過去最高となった2017年10～12月の▲35と同水準。



4. 経営上の問題点

全産業では、「人手・人材不足」50%がトップ。ただ、製造業では、「仕入れ価格の上昇」61%が1位、「設備の不足・老朽化」44%が2位となり、非製造業は、「人手・人材不足」59%が1位、「販売・受注競争の激化」47%が2位、と経営課題に違いが見られる。



5. 今後の経営方針

全産業では、「販売力の強化」62%が1位、「品質・サービスの向上」45%が2位。製造業では、「販売力の強化」61%が1位、「合理化・効率化」50%が2位。非製造業では「販売力の強化」63%が1位、「従業員教育の強化」52%が2位。

県内企業経営者は、独自の経営課題にそれぞれ取り組みながら、売上と収益力向上に意を注いでいることが見てとれる。

